3a
210
明8

20187
教科書文庫
2
210
31-1875
20000
67715
M81,1875

室「料資
32
210
明8

師範學校編輯

日本畧史

明治八年十月

文部省刊行

廣島大學
67715
圖書

日本略史下卷

木村正辭　編
那珂通高　訂

第七十二代後三條天皇ハ後朱雀天皇ノ子ナリ、一條天皇以來政外戚ニ歸シ、朝憲漸弛ブ、天皇剛健嚴明ニシテ、大ニ紀綱ヲ張リ、新置ノ莊園ヲ收メ、記錄所ヲ置キ、親民訟ヲ聽斷ス、又斗升ノ法ヲ定ム、所謂宣旨升、是ナリ、參議大江匡房其ノ治ヲ稱シ、承和、延喜ノ政ニ、比スベシト云ヘリ、延久四年、病ヲ以テ、位ヲ皇太子ニ讓リ、明年五月、遂ニ崩

ズ、在位僅ニ四年、年四十、世擧リテ、コレヲ惜ム、

第七十三代、白河天皇ハ、後三條天皇ノ子ナリ、剛斷果決、政宸衷ヨリ出ヅ、故ヲ以テ、相門手ヲ斂ム、頗後三條天皇ノ、風アリ、然レドモ、常ニ土木ヲ喜ビ、國用窘窮シ、財ヲ納ル、者ハ、國司ニ、任ゼラルヽニ至ル、在位十四年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓リ、故ヲ院中ニ決シ、院別當ヲ置キテ、事大小ト無ク、令スルニ、院宣ヲ以テス、是ヨリ、天下院宣ヲ重ズルコト、宣旨官符ニ倍レリ、大治四年、七月崩ズ、年七十七、

第七十四代、堀河天皇ハ、白河天皇ノ子ナリ○清原武衡家衡亂ヲ出羽ニ作シ、金澤柵ニ據ル、源義家攻メテコレヲ拔キ、武衡家衡ヲ斬リ、事平ク、コレヲ後三年ノ戰ト云フ、

○上皇愛女ヲ喪ヒ、哀慼シテ薙髮シ、法皇ト稱ス、仍政ヲ聽クコト、故ノ如

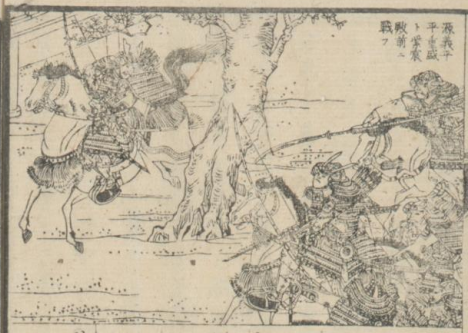
シ、天皇爲ス所アルコト能ハズ、然レドモ、心ヲ、政治ニ留メ、諸司ノ奏案ハ、夜必覆視シ、疑フベキモノアレバ、御批シテ、再議セシム、嘉承二年、七月崩ズ、在位二十一年、年二十九、

第七十五代、鳥羽天皇、堀河天皇ノ子ナリ、天皇、五歲ニシテ、位ニ即ク、白河法皇萬機ヲ聽決ス、○天皇在位、十六年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ傳ヘ、保元七年崩ズ、年五十四、○天皇、容儀ヲ修スルコトヲ好ム、朝服ニ稜アリ、烏帽ニ額アルコト、此ノ時ヨリ始マル、又内ヲ好ミテ、嬖幸多ク、前後、三女院アリテ藤原得子、美福門院景寵セラル、保元ノ亂、實ニ此ニ兆セリ、

第七十六代、崇德天皇ハ、鳥羽天皇ノ子ナリ、天皇モ亦、五歲ニシテ、位ニ即ク、白河法皇政ヲ院中ニ聽ク、既ニシテ、法皇崩ズ、鳥羽上皇、續ギテ、萬機ヲ理ム、亦薙髮シテ、法皇ト稱ス、○皇弟、體仁親王ヲ立テ、皇太子トス、母ハ即得子ナリ、其ノ速ニ位ヲ得ンコトヲ欲シ、法皇ヲ勸メテ、皇太弟トシ、遂ニ、天皇ヲシテ、位ヲ讓ラシム、○天皇在位十八年、長寛二年八月、讚岐國ニ崩ズ、年四十六、世ニ讚岐

院ト稱ス、高倉天皇治承元年、始メテ諡ヲ奉ル、
第七十七代近衛天皇ハ、鳥羽天皇ノ子ナリ、即位
ノ時、年甫メテ三歳、鳥羽法皇、政ヲ院中ニ聽ク、世
コレヲ、本院ト稱シ、上皇ヲ、新院ト云フ、〇左大臣
藤原頼長寵ヲ法皇ニ得テ、其ノ兄忠通ト、隙アリ、
忠通時ニ攝政タリ、天皇稍長ジテ、忠通ノ信ジ、頼
長ヲ惡ム、然レドモ、法皇ヲ憚リ、意ノ如クスルコ
トヲ得ズ、居常鬱々、遂ニ、積モリテ疾ヲナシ、久壽
二年、七月崩ズ、在位十四年、年十七、
第七十八代後白河天皇ハ、崇德天皇ノ、同母弟ナ

リ、近衛天皇崩シテ嗣ナシ、上皇意ヘラク、若重祚
スルニ非ズバ、重仁必立タシト、重仁ハ、其ノ長子
ナリ、長ニシテ、賢ナルヲ以テ、中外望ヲ屬ス、得テ
謂ヘラク、上皇近衛天皇ヲ呪詛スト、法皇コレヲ
信ズ、因リテ忠通ト謀リ、天皇ヲ立ツ、上皇憚バズ、
保元元年、法皇崩ズ、上皇頼長ヲレテ、源爲義平忠
政等ヲ召シ、白河殿ニ會セシメ、將ニ以テ、兵ヲ舉
ゲントス、天皇源義朝平清盛等ニ敕シテ、コレヲ
伐タシメ、上皇ヲ讃岐ニ遷ス、コレヲ、保元ノ亂ト
イフ、〇天皇在位三年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、



後五代ノ天皇皆幼ナ
ルヲ以テ、政ヲ院中ニ決
スルコト、三十餘年、建久
三年、三月崩ズ、年六十六、
第七十九代、二條天皇ハ、
後白河天皇ノ子ナリ、即
位ノ時、年十六、上皇政ヲ
院中ニ聽ク、○平治元年、
藤原信頼反シ、源義朝ノ
兵ヲ以テ夜三條殿ヲ燒
キ、上皇ヲ幽シテ、天皇ヲ、黒戸御所ニ遷シ、自大臣
大將ト稱シ、官ヲ其ノ黨與ニ授ク、天皇、乃平清盛
等ヲシテ、信頼ヲ誅セシム、義朝、尾張ニ走リテ、人
ニ殺サレ、事遂ニ平ク、コレヲ、平治ノ亂ト云ス、
天皇在位七年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓リ、永萬元
年、七月崩ズ、年二十三、
第八十代、六條天皇ハ、二條天皇ノ子ナリ、二歳ニ
シテ即位ス、後白河上皇、政ヲ院中ニ決スルコト、
故ノ如シ、○仁安元年、天皇ノ叔父、憲仁親王、高倉天皇
ヲ立テ、皇太子トス、親王ノ母ハ、平清盛ノ妻ノ

妹ナリ、後白河上皇、コレヲ嬖シ、因リテ親王ヲ立ツ、時ニ年六歲ニシテ、天皇ハ、僅ニ三歲ナリ、朝野、其ノ昭穆、序ヲ失スルコトヲ譏ル、明年、清盛太政大臣タリ、是ノ時、平氏ノ族、朝官タル者、六十餘人、其ノ采邑、三十餘國ニ跨リ、朝政盡清盛ニ決ス、○天皇在位三年、年五歲ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓リ、新院ト稱ス、未冠セザルノ上皇ハ、古ヨリ、未ダコレ有ラズ、後、安元二年、七月崩ズ、年十三、

第八十一 高倉天皇ハ、後白河上皇ノ、子ナリ、即位ノ時、年甫メテ八歲、○上皇薙髮シテ、法皇ト稱ス、是ヨリ先、清盛病ニ因リテ、髮ヲ削リ、靜海ト號ス、世コレヲ、太政入道ト云フ、第ヲ西八條ニ造リ、又別莊ヲ福原ニ興シ、勢ヲ恃ミテ、驕横ナリ、上皇積ミテ、平ナルコト能ハズ、是ニ至リテ、佛ニ歸ス、○藤原成親僧西光ト、平氏ヲ、ゼサンコトヲ謀リ、源行綱ヲ、引キテ、黨トス、法皇モ亦、其ノ議ニ與ル、行綱事遂ニ成ラザランコトヲ、懼レテ、密ニ、謀ヲ清盛ニ告グ、清盛怒リテ法皇ヲ幽セムトス、其ノ子重盛、泣キ且諫メテ、コレヲ止ム、因リテ、西光ヲ殺シ、成親等ヲ流シ、尋テ、人ヲシテ、成親ヲ殺サシ、

平重盛父
諫海ヲ聴
ムル圖

ハ、既ニシテ、重盛薨ス、朝野コレヲ惜ム、數月清盛兵ヲ率ヰテ、福原ヨリ至ル、京都騒擾ス、遂ニ關白基房ヲ貶シ、太政大臣師長ヲ流シ、法皇ヲ鳥羽殿ニ幽ス、○天皇在位十二年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓リ、新院ト稱ス、天皇、性仁孝ニシテ、喜怒色ニ形レズ、法皇ノ幽セラルヽニ及ビテ、憂鬱疾ヲ致シ、養和元年、正月崩ズ、年二十六

第八十二代安德天皇ハ、高倉天皇ノ子ナリ、三歲ニシテ即位ス、○源頼政、以仁王ヲ勸メテ、潛ニ令ヲ諸國ニ下シ、兵ヲ起シテ、平氏ヲ亡サンコトヲ謀ル、事成ラズシテ、自殺シ、王モ亦流矢ニ中リテ薨ズ、王ハ、後白川法王ノ第二子ナリ、○源頼朝、以仁王ノ令ヲ奉シ、兵ヲ伊豆ニ起シテ、相模ノ鎌倉ニ據ル、諸國ノ源氏、頼朝ニ應ズル者、多クシテ、源義仲、信濃ヨリ起リ、平氏ト越中ニ戰ヒ、大ニコレ

ニ勝ツ、頼朝モ亦平氏ノ軍ヲ、駿河ニ破ル、會清盛、病ヲ得テ薨ズ、義仲長驅シテ、近江ニ入リ、延暦寺ニ據ル、法皇、夜宮ヲ出デヽ、義仲ノ營ニ幸ス、清盛ノ子宗盛、乃一族ト、天皇ヲ奉ジ、神器ヲ擁シテ、筑前ニ奔ル、既ニシテ、讃岐ニ遷リ、行宮ヲ屋島ニ造ル、尋デ、長門ノ壇浦ニ崩ズ、在位五年、年八歲、實ニ壽永四年三月ナリ、後文治三年、諡ヲ上ル、

第八十三代、後鳥羽天皇ハ、高倉天皇ノ子ナリ、平氏、安德天皇ヲ奉ジ、筑前ニ奔ルニ當リテ、法皇、旨ヲ宗盛ニ喻シテ、車駕ヲ還サシム、宗盛勅ヲ奉ゼズ、是ニ於テ、法皇、乃公卿ト議シ、天皇ヲシテ、踐阼セシム、時ニ、年五歲ナリ、○法皇、義仲ニ敕シテ、平氏ヲ討タシム、義仲糧乏シキヲ以テ、遷延發セズ、京畿ヲ抄略ス、法皇、其ノ暴横ヲ惡ミ、潛ニ、コレヲ討タンコトヲ謀ル、義仲、遂ニ兵ヲ擧グテ反シ、天皇、及法皇ヲ幽ス、既ニシテ、義仲、法皇ニ逼リテ、頼朝ヲ討スルノ院宣ヲ請フ、頼朝、遙ニ義仲ノ暴横ヲ聞キ、弟範頼、義經ヲシテ、コレヲ討タシム、義仲敗走シテ、近江ニ死ス、是ノ時ニ當リテ、平氏既ニ攝津ノ一ノ谷ニ據ル、範頼、義經、討チテ、コレヲ讃岐

ニ走ラス尋テ、長門ノ壇浦ニ戰ヒ、大ニコレヲ敗ル、是ニ於テ、平氏盡ク亡ビ、神劍モ亦從ヒテ海ニ沈メリ、○義經、既ニ平氏ヲ滅シ、鏡璽ヲ得テ、京都ニ入ル、初、天皇ノ即位スル、藤原兼實劍璽ナキヲ以テ、コレヲ諫ム、法皇聽カズ、是ニ於テ、藤原經房等、鏡璽ヲ、烏羽ニ迎ヘテ、コレヲ溫明殿ニ安ス、○賴朝此條時政ヲ遣ハシテ、京都ヲ護セシメ、又奏シテ、諸國ニ守護ヲ置キ、莊園ニ地頭ヲ置キ、親其ノ總地頭タランコトヲ請フ、法皇コレヲ許ス、總地頭ハ、即總追捕使ナリ、是ヨリ天下ノ權悉賴朝ニ

歸ス、尋テ、征夷大將軍ニ任ゼラル、○天皇在位十三年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓リ、上皇ト稱ス、踐阼ヨリ、此ニ至ルマテ、十五年、後政ヲ院中ニ懸クコト、二十餘年、常ニ、王室ノ陵替ヲ憤リ、コレヲ恢復スルノ志アリ、院ノ西面ノ士ニ置キ、武事ヲ親シ

八島ノ戰

自刀劍ヲ鍛フルニ至ル承久ノ役起ルニ及ビテ北條義時天皇ヲ隱岐ニ遷ス巖穴ニ入リテ宮ヲ爲リ茅茨松椽僅ニ風雨ヲ蔽フノミカクノ如キコト十九年ニシテ延應元年二月崩ズ年六十第八十四代土御門天皇ハ後鳥羽天皇ノ子ナリ即位ノ年甫メテ四歲上皇政ヲ院中ニ聽ク○源頼朝薨ズ其ノ子頼家ヲ以テ諸國守護地頭ヲ總督セシメ征夷大將軍ニ任ズ北條時政外祖タルヲ以テ鎌倉ノ政ヲ執ル後頼家疾アリテ其ノ子一幡尚幼ナリ頼家ノ母政子頼家ノ終ニ起クベカラザルコトヲ慮リ時政ト議シ關東二十八國ノ守護職ヲ割キテ頼家ノ孝千幡ニ與ヘントス一幡ノ外祖比企能員コレヲ不可トシ其ノ女ニ因リ以テ頼家ニ告ク頼家密ニ能員ヲ臥内ニ召シ共ニ事ヲ謀ル政子其ノ謀ヲ知リテ時政ニ告ゲ時政乃能員ヲ給キテコレヲ殺ス能員ノ子宗員一幡ヲ擁シテ兵ヲ舉ゲ時政攻メテコレヲ殲シ遂ニ頼家ヲ伊豆ニ幽シ後人ヲシテコレヲ殺サシム是ニ於テ時政千幡ヲ奉シテ命ヲ朝廷ニ請フ因リテ名ヲ實朝ト賜ヒ征夷大將軍ニ任ス

時ニ年十二ナリ、既ニシテ、時政其ノ女婿源朝雅ヲ以テ、實朝ニ易ヘンコトヲ謀レ、實朝乃時政ヲ幽シ、朝雅ヲ殺ス、時政ノ子義時、代リテ執權トナル、○天皇在位十二年ニシテ、位ヲ、皇太子守成順德皇ニ傳フ、天皇、性温醇ニシテ、失德アラズ、後鳥羽天皇深ク守成ヲ愛シ亟ニ讓位セレム、是ヨリ、天皇閒居シテ、歌詠自娛ム、後鳥羽天皇ノ、北條氏ヲ討ム、天皇屢コレヲ諫メタルヲ以テ、播遷ノ禍ニ及バズ、然レドモ、獨京都ニ止マルニ忍ビズ、攝政道家ヲシテ、旨ヲ鎌倉ニ諭サレム、義時乃天皇ヲ

土佐ニ徙ス、寛喜三年十月、阿波ニ崩ス、年三十七、第八十五代順德天皇ヘ、土御門天皇ノ弟ナリ、土御門天皇ヲ、上皇ト稱シ、後鳥羽天皇ヲ、本院ト云フ、本院仍政ヲ院中ニ聽ク、○將軍實朝ヲ、右大臣ニ任ズ、實朝拜賀ノ禮ヲ、鶴岡ニ行フ、時ニ、賴家ノ

子公曉、暗中ヨリ出デ、實朝ヲ戕シ、大呼シテ曰ク、父ノ讎ヲ報ズト、乃逃レテ、三浦義村ニ依ル、義村給キテコレヲ殺シ、首ノ義時ニ送ル、是ニ於テ、義時奏シ請ヒテ、藤原頼經ヲ、鎌倉ノ主トス、左大臣道家ノ子ナリ、年甫メテ二歳、政子代リテ、府事ヲ聽決ス、時人コレヲ、尼將軍ト稱ス、○天皇、在位十一年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、承久ノ役、其ノ事ニ與ルヲ以テ、佐渡ニ遷サレ、仁治三年、九月崩ズ、年四十六、後建久元年、謚ヲ上ル、

第八十六代、仲恭天皇ハ、順德天皇ノ子ナリ、四歳ニシテ即位ス、順德天皇ヲ、新院ト稱ス、因リテ、土御門天皇ヲ、中院ト稱シ、以テ本院ニ別ツ、本院、仍政ヲ院中ニ聽ク、初、本院、源氏ノ兵權ヲ握リテ、朝廷ヲ制スルコトヲ惡ム、實朝害ニ遭フニ及ビテ、思ヘラク、威柄復スベシト、而ルニ鎌倉ノ權勢舊ニ仍ル、是ニ於テ、意益平ナラズ、怨ヲ積ミテ意ヲ決シ、義時ノ官爵ヲ削リ、天下ニ詔シテ、コレヲ討タシム、義時、乃弟時房子泰時等ヲシテ、兵ヲ率ヰテ、西犯セシム、本院、諸將ヲ分チ、コレヲ拒ギテ、克タズ、泰時遂ニ京都ヲ陷ル、本院、懼レテ、義時ノ官

爵ヲ復シ、追討ノ院宣ヲ止ム、泰時、天皇ヲ廢シ後堀河天皇ヲ立テヽ、本院ヲ、隱岐ニ遷ス、中院ハ土佐、新院ハ佐渡、雅成・頼仁兩親王ハ、但馬・備前ニ徒サル、○天皇、在位、僅ニ七十餘日、文暦元年五月、九條院ニ崩ズ、年十七、世ニ、九條廢帝ト稱ス、後明治三年、謚ヲ上ル、

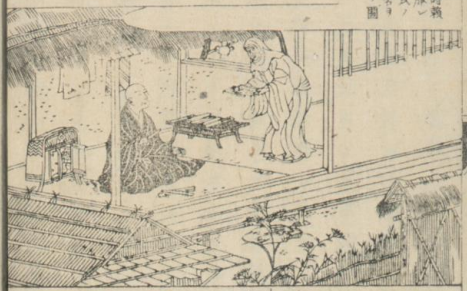
第八十七代後堀河天皇ハ、高倉天皇ノ孫ニシテ、後高倉太上法皇守貞親王ノ子ナリ、即位ノ時、甫メテ十歲○義時、府ヲ京都ノ、南北六波羅ニ置キ、泰時、時房ヲシテ、コレヲ鎭セシム、既ニシテ、義時卒ス、泰時、權ヲ、詔シテ、賴經ヲ、征夷大將軍ニ任ズ、貞永元年、泰時、新令五十條ヲ頒ツ、貞永式目、是ナリ、○天皇、在位十一年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、文暦元年、八月崩ズ、年二十三、

第八十八代、四條天皇ハ、後堀河天皇ノ子ナリ、即位ノ時、生レテ二歲、○在位十年ニシテ、仁治三年、正月崩ズ、年十二、

第八十九代、後嵯峨天皇ハ、土御門天皇ノ子ナリ、初、土御門天皇ノ、南遷スルニ當リテ、天皇、生レテ二歲、外家源通方ニ依リテ居リ、四條天皇、崩ズル

ニ及ビテ、嗣無レ、泰時、上御門天皇ノ承久ノ事ニ、與ラザルヲ以テ、群議ヲ排レテ、天皇ヲ立ツ、既ニシテ、泰時卒ス、孫經時執權タリ、頼經ヲ廢レテ、其ノ子、頼嗣ヲ立テンコトヲ請フ、因リテ、頼嗣ヲ、征夷大將軍ニ任ズ、頼嗣甫メテ六歳○天皇、在位四年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、文永九年、二月崩ズ、年五十三、○天皇、位ヲ遜ルノ後、二皇子、相踵ギテ、踐阼ス、仍リテ、政ヲ、院中ニ聽クコト、二十六年、其ノ將ニ、崩ゼントスルニ及ビテ、世、位ヲ、龜山天皇ノ後ニ傳ヘテ、後深草天皇ノ子孫ニハ、長講堂ノ封地ヲ與ヘンコトヲ遺詔シ、陰ニ、朝權ヲ、回復スルニ意アリ、北條時宗、皇統、互ニ立ツノ議ヲ建テ、朝廷ノ衰替、極レリ、

第九十代、後深草天皇ハ、後嵯峨天皇ノ子ナリ、四歳ニシテ、即位ス、上皇、政ヲ院中ニ聽ク、○鎌倉執權、北條經時卒ス、弟時頼、職ヲ襲グ、時頼ノ從父、光時、前將軍頼經ニ說キテ、時頼ヲ圖ラレメ、己、コレニ代ラントシテ、事露ル、時頼、乃頼經ヲ京都ニ逐フ、三浦光村、コレヲ憤リ、其ノ兄泰村ト、北條氏ヲ滅シ、以テ頼經ヲ、迎ヘンコトヲ謀ル、事成ラズシ



テ、臭族自殺ス、頼經密ニ、兵ヲ京都ニ集ム、時頼コレヲ知リ、又、將軍頼嗣ヲ廢シテ、上皇ノ皇子、宗尊親王ヲ迎ヘテ、鎌倉ノ主トス、親王尋ヲ、征夷大將軍ニ任ゼラル、○時頼疾ニ罹リ、薙髪シテ、最明寺ニ老ス、其ノ子時宗尚幼ナリ、故ニ、族長時ヲシテ、

代リテ、執權タラシメ、時頼大事ヲ聽決ス、○天皇、在位十三年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、嘉元二年、七月崩ズ、年六十二、

第九十一代、龜山天皇ハ、後深草天皇ノ、同母弟ナリ、○時頼卒ス、時頼、善ク舊制ニ遵ヒ、府事大ニ治マル、職ヲ解キテ後、微服シテ四方ニ遊ビ、民ノ疾苦ヲ問フ、又青砥藤綱ヲ擧ゲテ、引付衆トス、藤綱、廉ニシテ剛、權貴ヲ憚ラズ、一時風俗頓ニ革マル、世時頼ヲ以テ、善ク人ヲ得タリトス、○長時罷ム、時宗執權タリ、大將軍宗尊親王ヲ廢シテ、京都ニ

送リ還ス、其ノ子惟康王、コレニ代ル、時ニ、生レテ三歳ナリ、○此ノ時、元使對馬ニ來ル、コレヲ逐ヒ還ス、後、元使趙良弼書ヲ齎ヘテ、又太宰府ニ至リ、必其ノ報ヲ得ンコトヲ求ム、朝廷、答書ヲ草レテ以テ、時宗ニ示ス、時宗奏レテ、コレヲ止メ良弼ヲ逐ヒ還ス、○天皇、在位十五年ニレテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、後、政ヲ院中ニ聽クコト、十餘年、嘉元三年九月崩ズ、年五十七、

第九十二代、後宇多天皇、亀山天皇ノ子ナリ、八歳ニレテ、即位ス、亀山上皇、政ヲ院中ニ聽ク、○元

我ガ屢其ノ使ヲ、逐ヒ還レトヲ憤リ、兵三萬ヲ以テ、對馬壹岐ヲ犯レ、進ミテ、太宰府ニ寇ス、鎮兵擊チテコレヲ却ク、既ニレテ、元使來リテ、和ヲ講ズ、時宗、コレヲ鎌倉ニ斬リ、益兵備ヲ嚴ニシ、探題ヲ鎮西ニ置キ、北條實政ヲ以テ、コレニ任ズ、元將又來リ、部將ヲレテ、太宰府ニ至ラレメ、猶和ヲ講ズルヲ以テ、言トス、時宗、又、コレヲ博多ニ斬ル、是ニ於テ、元大舉レテ、入寇ス、我ガ兵、コレヲ拒ギテ利アラズ、益兵ヲ諸道ニ徵ス、亀山上皇、深ク以テ憂トレ、手書ヲ、伊勢大神宮ニ奉ビテ、身ヲ以テ、コレ

ニ代ラシコトヲ祈ル、元兵入リテ、太宰府ヲ犯ス、鎮兵、又撃チテ、コレヲ破ル、元兵退キテ、肥前ノ鷹島ニ保ス、會颶風大ニ起リ、其ノ戰艦、盡覆ヘル、我ガ兵掩撃シテ、コレヲ殲ス、是ヲ、弘安ノ役ト云ス、弘安ハ、當時ノ年號ナリ、

○時宗卒ス、其ノ子貞時、嗣ギテ執權タリ、○天皇、在位十三年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、元亨四年、六月崩ズ、年五十八、

第九十三代、伏見天皇ハ、後深草天皇ノ子ナリ

貞時、將軍惟康親王ヲ廢シテ、コレヲ京都ニ送リ遠ス、久明親王、代リテ、鎌倉ノ主トナリ、征夷大將軍ニ任ズ、久明ハ、天皇ノ弟ナリ、○盜、夜禁内ニ入ル、衛兵、コレヲ捕ヘントス、盜遂ニ自殺ス、初、後嵯峨天皇ノ約ニ因リ、龜山上皇ノ裔、世大統ヲ承クベクシテ、後深草天皇、時宗ニ請ヒ、天皇ヲ立ツ、是ニ至リテ、時論皆盜ヲ以テ、龜山上皇ノ、命スル所

ナルヲ疑ス上皇懼レテ自誓書ヲ作リ、貞時ニ賜ス事乃、止ムコトヲ得タリ、○天皇、在位十一年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、文保元年、九月崩ズ、年五十三、

第九十四代後伏見天皇ヘ、伏見天皇ノ子ナリ、十一歳ニシテ、即位ス、伏見上皇、政ヲ、院中ニ聽ク、○天皇在位三年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓リ、上皇ト稱ス、是ニ於テ、後深草上皇ヲ、亦院ト稱シ、龜山上皇ヲ、中院ト稱シ、後宇多上皇ヲ、新院ト稱ス、伏見上皇ヲ併セテ五上皇アリ、上皇ノ多キコト、古ヨリ未アラザル所ナリ、○初伏見上皇、時宗ノカニ藉リテ、立コトヲ得タリ、因リテ、密ニ、貞時ニ告グテ曰ク、中院常ニ、承久ノ事ニ切齒ス、其ノ後ヲ立ツルハ、卿ノ利ニ、非ルナリト、貞時、乃、天皇ヲ立ツ、後宇多上皇悅ブズ、讓ズルニ、後嵯峨天皇ノ遺詔ニ、遵フヲ以テス、貞時乃、後深草上皇、龜山上皇ト、其ノ兩統、十年毎ニ、更立スルノ約ヲ定メ、天皇ニ逼リテ、位ヲ讓ラレム、元弘ノ亂、實ニ此ニ兆ス、○天皇、延元元年、四月崩ズ、年四十九、

第九十五代後二條天皇ヘ、後宇多天皇ノ子ナリ、

○貞時、鎌倉執權ヲ、族師時ニ讓リ、將軍、久明親王ヲ廢シテ、其ノ子守邦王ヲ以テ、コレニ代ス、○天皇在位六年ニシテ、延慶元年八月崩ズ、年二十四、

第九十六代、花園天皇ハ、伏見天皇ノ子ナリ、十二歲ニシテ即位ス、伏見上皇、政ヲ、院中ニ聽ク、○師時及貞時卒ス、族熙時、鎌倉執權タリ、尋テ亦卒ス、族基時コレニ代リ、以テ、高時ニ傳ス、高時ハ、貞時ノ子ナリ、時ニ年十四、○天皇在位十年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、貞和四年、十一月崩ズ、年五十二、

第九十七代、後醍醐天皇ハ、後宇多天皇ノ子ナリ、

●天皇、意ヲ政事ニ留メ、記錄所ヲ置キ、親氏ノ訟ヲ聽ク、又常ニ、高時ノ、權ヲ專ニスルヲ怒リ、藤原資朝、藤原俊基ト、密ニ、コレヲ誅セムコトヲ謀ル、資朝等、武人ノ、用ヰル、ニ足ル者ヲ引キテ、衣冠ヲ脫シ、酒ヲ縱ニシ、以テ、其ノ歡心ヲ結ブ、名ブケテ、無禮講トイフ、既ニシテ、事露レ、資朝等、捕ヘラル、天皇誓書ヲ、高時ニ賜ヒテ、事釋ク、高時、乃、俊基ノ赦シテ、資朝ヲ流ス、天皇、高時ヲ圖ルノ意益切ナリ、會皇太子邦良薨ズ、天皇、皇子護良親王ノ、英名有ルヲ愛シ、立テヽ、以テ、邦良ニ代ヘンコトヲ欲

レ、旨ヲ、高時ニ喻ス、高時固ク貞時ノ約ヲ執リテ、詔ヲ奉ビズ後伏見上皇ノ皇子、量仁親王ヲ立ス、天皇乃、護良親王ヲシテ、髮ヲ削リ、尊雲ト稱セシメ、延曆寺ノ座主トシ、以テ僧徒ノ心ヲ收ム、其ノ大塔ニ居ルヲ以テ、稱シテ、大塔宮トモ、親王密ニ、天皇ノ謀ヲ贊ク、天皇僧圓觀等ヲシテ、高時ヲ、禁内ニ呪セシム、高時コレヲ聞キテ、兵ヲ京都ニ遣ハシ、天皇ヲ遷シテ、護良親王ヲ竄セントス、親王諜シテ、其ノ謀ヲ知リ、夜使ヲ馳セテ、コレヲ天皇ニ奏ス、天皇神器ヲ奉シテ、潛ニ宮ヲ出デ、笠置山ニ幸ス、親王僧徒ヲシテ、東兵ヲ、近江ノ辛崎ニ拒ガシム、既ニシテ、衆潰ユ、親王モ亦南都ニ奔ル、天皇笠置山ニ在リ、詔ヲ四方ニ下シテ、王事ニ勤セシメ、楠正成ヲ召シテ、委スルニ、興復ノ事ヲ以テス、正成慷慨詔ヲ奉ビ、歸リテ、赤坂ニ城ク、高時天皇宮ヲ出ヅト聞キテ、量仁親王ヲ奉シテ、位ニ卽カシム、是ヲ、光嚴院ト云フ、兵ヲ遣ハシテ、笠置山ヲ犯サシメ、天皇ヲ、平等院ニ奉シテ、神器ヲ新主ニ傳ヘシコトヲ請ス、天皇許サズ、後六波羅ニ幸ス、又コレヲ請ス、因リテ、新ニ神器ヲ造リテ、新

主ニ按ズ高時遂ニ、天皇ヲ隱岐ニ徙レテ、諸皇子ヲ諸國ニ遷ス、兒島高德車駕ヲ奪ハンコトヲ謀リ、能ハズ、初、正成ノ赤坂ニ城ヲ脩築未成ラズレテ、笠置山既ニ陷ル、東兵勢ニ乘シ來リ攻メテ、拔クコトヲ得ズ、正成糧盡クルヲ以テ逃レテ、金剛

山ニ入ル是ニ至リテ、又兵ヲ起シ、赤坂ノ復シ、兵ヲ率ヰテ、和泉河内ヲ徇ヘ、進ミテ、天王寺ニ陣ス、護良親王モ亦兵ヲ吉野ニ起ス、新田義貞赤松則村等モ亦兵ヲ舉グ、天皇遥ニコレヲ聞キテ、千波港ヨリ、小舟ニ御シテ、伯耆ニ幸ス、名和長年、旗ヲ舉ゲテ、天皇ヲ、舟上山ニ奉ズ、近國ノ兵、來リ攻ム、長年擊チテコレヲ走ラス、則村、及足利高氏等、京都ヲ復ス、義貞ハ、鎌倉ヲ拔キテ、高時ノ誅ス、高時少クシテ、荒縱ナリ、政ヲ長崎高資ニ委ヌ、高資貪リテ私多ク、因リテ民心ヲ失ヒ、北條氏遂ニ亡ノ、

是ニ於テ、車駕宮ニ還リ、詔シテ、新主ヲ廢シ、其ノ官爵ヲ、受ケタル者ヲ貶シ、關白ヲ置クコトヲ罷ム、初、高氏ノ京都ヲ復スル、護良親王ノ威名ヲ忌ミ、コレヲ、除カンコトヲ圖ル、會親王ノ候人、僧良忠ノ部卒、罪ヲ犯ス、高氏捕ヘテコレヲ梟ス、良忠ハ、殿法印ト稱ス、親王怒リテ、高氏ヲ討センコトヲ請フ、天皇許サズ、親王ヲ拜シテ、征夷大將軍トシ、高氏ニ、御名ノ一字ヲ賜ヒテ、尊氏ト改メシム、決斷所ヲ置キテ、軍功ノ賞ヲ議ス、將士、未邑ヲ受ケズシテ、嬖人、地ヲ賜フ者多ク、又安藝周防ノ租賦ヲ以テ、大内ヲ營ムノ費ニ供シ、始メテ楮幣ヲ造リ、漸冥遊ヲ事トス、藤原藤房、コレヲ諫ムレドモ、聽カズ、乃去リテ、僧トナル、●恒良親王ヲ立テ、皇太子トス、内侍廉子ノ、生メル所ナリ、廉子常ニ、護良親王ノ、大功アルヲ以テ、太子ニ、利アラザランコトヲ恐ル、故ニ、尊氏ト與ニ、親王ヲ讒ス、因リテ、コレヲ鎌倉ニ流ス、是ヨリ先、皇子成良親王、出デテ、鎌倉ニ鎮タリ、尊氏ノ弟直義、コレヲ輔ク、是ニ至リ、直義乃護良親王ヲ土窟ニ幽ス、尋デ、北條時行、餘黨ヲ聚メテ、亂ヲ作ス、時行ハ、高時ノ子

ナリ、進ミテ、鎌倉ヲ攻ム、直義、コレヲ拒ギテ克タズ、成良親王ヲ奉レテ、西ニ走リ、入ヲシテ、護良親王ヲ殺サシム、天皇時行亂ヲ作スト聞キテ、尊氏ヲ、征東將軍トシ、擊ナラ、コレヲ破ラシム、尊氏功ニ誇リ、鎌倉ニ據リテ、自征夷大將軍ト稱シ、義貞ヲ、除カンコトヲ謀リ、上書シテ、其ノ罪ヲ訴ス、義貞モ亦、尊氏ノ、罪狀ヲ陳ス、天皇乃、尊氏ノ官爵ヲ削リ、義貞ヲシテ、追討セシム、尊氏、兵ヲ出ダシテ、コレヲ路ニ拒グ、義貞、連戰シテ、皆、捷ナ、進ミテ、箱根ニ至ル、義貞ノ弟義助、尊氏ノ兵ト竹下ニ戰ヒテ利アラス、諸將叛ク者多シ、義貞乃、兵ヲ引キテ還ル、尊氏勢ニ乘ジ、入リテ、關ヲ犯ス、天皇、又神器ヲ奉シテ、二法皇ト共ニ、比叡山ニ幸ス、會、源顯家、陸奥ノ兵ヲ率ヰ、來リ援ス、義貞與ニ、尊氏ヲ、京都ニ破ル、尊氏、西ニ走リテ、少貳賴尚ニ賴ル、菊地武敏、コレヲ討ナテ、克タズ、既ニシテ、尊氏、後伏見上皇ノ宣旨ナリト稱シ、大舉シテ、東ニ上リ、首丹師ヲ督シ、直義ヲシテ、陸軍ヲ率ヰ、福山城ヲ攻メシム、是ノ時ニ當リテ、義貞、赤松則村ヲ、播磨ノ白旗城ニ攻メテ、下スコト能ハズ、福山城陷ルト聞キ

ヲ、退キテ攝津ニ陣ス、正成ニ詔シテ、義貞ヲ援ハシム、尊氏ノ兵、水陸ヨリ、並進ム、正成湊川ニ戰ヒテ、コレニ死シ、義貞敗レテ還ル、天皇復神器ヲ奉ジテ、比叡山ニ幸ス、尊氏遂ニ京都ニ入ル、名和長年モ亦コレニ死ス、藤原師基、北國ノ兵ヲ率ヰ、來リ援フニ及ビテ、官軍復振フ、尊氏乃、後伏見上皇ノ皇子、豐仁親王ヲ奉ジテ、帝ト稱セシム、光明院是ナリ、遂ニ兵ヲ遣ハシテ、糧道ヲ絶ダシム、官軍大ニ困ム、既ニシテ、尊氏、伴リテ降ヲ乞フ、天皇コレヲ許シ、義貞ヲシテ、皇太子恒良、及、尊良親王ヲ奉ジテ、北陸道ヲ經略セシメテ、車駕京都ニ還ル、是ニ於テ、尊氏、天皇ヲ、花山院ニ幽シ、迫リテ、神器ヲ、天皇ニ傳ヘンコトヲ請フ、天皇授クルニ、新造ノ器ヲ以テシ、又潛ニ逃レテ、吉野ニ幸ス、正成ノ子正行、其ノ族ヲ率ヰ、來リテ行宮ヲ護ル、因リテ、

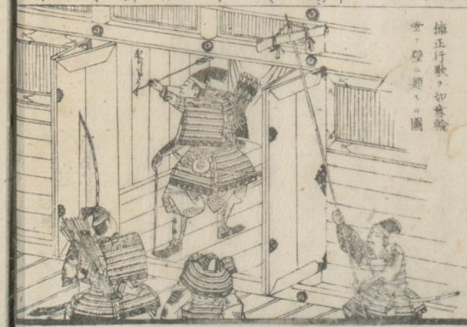
義貞ニ詔シテ、興復ヲ圖ラシム、是ノ時ニ當リテ、義貞義助皇太子ヲ奉シテ、越前ノ、金崎城ニ據ル、其ノ國人、瓜生保義助ノ子、義治ヲ將トシテ、兵ヲ杣山ニ起ス、尊氏ノ族高經金崎城ヲ攻メテ、拔クコト能ハズ、保等出デ、金崎城ヲ援ヒ、利ヲラズシテ、コレニ死シ、城中食盡タ、義貞義助潛ニ城ヲ踰エ、杣山ニ赴キ、援兵ヲ招徠ス、會城陷リテ皇太子執ヘラル、義貞進ミテ、越前府城ヲ拔キ、高經ヲ、足羽城ニ攻ム、兵勢大ニ振フ、尊氏乃皇太子、及成良親王ヲ弑ス、既ニシテ、義貞藤島城ヲ攻ム、克タズシテコレニ死ス、○天皇、在位二十一年ニシテ、位ヲ義良親王（後村上天皇）ニ讓リ、延元四年八月吉野ノ行宮ニ崩ズ、年五十二、天皇終ニ臨ミテ、未尊氏ヲ滅スコト能ハザルヲ以テ、恨トシ、遺詔シテ、恢復ヲ圖ラシメ、劍ヲ按シテ崩ズ

第九十八代、後村上天皇ハ、後醍醐天皇ノ子ナリ、初後醍醐天皇、源顯家ヲシテ、天皇ヲ奉シ、以テ陸奥ヲ鎮セシム、天皇、顯家ト兵ヲ率ヰテ、西上シ、尊氏ノ軍ヲ破ルコト數ナリ、後又出デ、伊勢ヨリ海ヲ航シテ、陸奥ニ赴カントス、颶ニ遇ヒテ累ナ

ス、是ニ至リテ、吉野ノ行宮ニ即位ス○是ノ時ニ當リテ、征東將軍宗良親王、遠江ニ在リ、征西大將軍懐良親王、筑紫ニ在リ、源顯信、新田義宗、及土居、得能、菊地等ノ諸族、東西ノ國郡ニ據リ、並ニ恢復ヲ圖ル○義助ヲ刑部卿トシ、四國ノ軍事ヲ總督セシム、是ヨリ先、義貞ノ死スル、義助越前府城ニ據リテ、義故ヲ糾合シ、足利高經ヲ、足羽城ニ擊チテ、コレヲ走ラス、既ニシテ、京都ノ援軍至ル、高經ノ兵、復振フ、義助大ニ敗レ、遂ニ吉野ニ詣ル、會、土居得能氏等、奏シテ將帥ヲ請フ、因リテ、敕シテ、義助ヲ遣ハスナリ、義助伊豫ニ至リ、病ヲ以テ卒シ、諸城皆陷ル、○源親房、常陸ノ、小田城ニ據リ、高師冬ト戰ヒテ、コレヲ破ル、會、小田治久、城ヲ以テ叛シ、師冬ニ降ル、親房退キテ、關城ニ保シ、書ヲ結城親朝ニ與ヘテ、援ヲ請フ、親朝辭スルニ、兵寡キヲ以テシ、遂ニ、賊ニ降ル、親房守ルコト、能ハズシテ歸ル、○楠正行、兵ヲ出ダシテ、京都ヲ、收復センコトヲ謀リ、敵將細川顯氏、山名時氏ト戰ヒテ、コレヲ破ル、尊氏、高師直、及師泰ヲシテ、兵八萬ヲ率ヰテ、來リ擊タシム、正行、弟正時ト、行宮ニ詣リ、天皇

ヲ拝辭シ、出デ、四條畷ニ戰ヒ、コレニ死ス、師直遂ニ行宮ヲ犯ス、天皇穴生ニ幸ス、正行ノ弟正儀師泰ノ兵ヲ、石河ニ拒グ、

○北方光明院、位ヲ從子興仁ニ讓ル、是ヲ崇光院トズ、初、尊氏、光明院ヲ擁立ス征夷大將軍タルニ及ビテ、直義モ亦、副將軍タリ政ヲ執ルコト數年、權一時ニ振フ、因リテ、尊氏ト並稱シテ、兩御所ト云フ、師直、師泰ノ寵ヲ恃ミテ、專横ナルヲ惡ミ、コレヲ、除カンコトヲ謀ル、直義子無シ、嘗テ、尊氏ノ庶長子、直冬ヲ、養ヒテ子トセリ、是ニ至リテ、中國探題トシテ、外藩ニ供セントス、既ニシテ、事泄ル、師直乃、師泰ヲ石川ヨリ召還シ、兵數萬ヲ以テ、幕府ヲ圍ミ、直義ヲ、斥クベシコトヲ請フ、尊氏、コレヲ許シテ、直義ヲ罷メ、義詮ヲ、鎌倉ヨリ召シテ、直義ニ代ヘ、政ヲ執ラシメ、其氏ヲ以テ、鎌倉ニ鎮タラシム義詮基氏共ニ尊氏



ノ子ナリ、師直因リテ、中國ノ將士ニ命ジ、直冬ヲ擊タシム、直冬肥後ニ奔リテ、兵ヲ擧グ、師直尊氏ニ勸メ、親征セシメンコトヲ欲シテ、直義ヲ譖リ、レフ殺シテ、後ニ、發セシコトヲ圖ル、直義走リテ、大和ニ匿レ、上書シテ、歸順セントス、天皇其ノ降ヲ納レ、詔シテ、尊氏ヲ討タシム、石堂義房、桃井直常等素師直ト惡シ、因リテ、直義ニ附ク、直義直常ト、京都ヲ夾擊ス、義詮敗レテ、西ニ奔ル、尊氏、師直等ト兵ヲ合セテ還ル、直義、又擊チテコレヲ破リ、遂ニ尊氏ト和ス、師直、師泰出デ、降リ、道ニシテ殺サル、直義乃尊氏ト、京都ニ歸リ、義詮ヲ罷メテ、復自政ヲ執ル、義房、直常、勢ヲ恃ミテ、横恣ナリ、仁木頼章、細川頼春、コレヲ疾ミ、引キテ國ニ還ル、義房、直常モ、亦自安ゼズ、直義ヲ奉ジテ、越前ニ還ル、尋テ、尊氏ト、近江ニ戰ヒ、克タズシテ、鎌倉ニ奔ル、尊氏コレヲ、追擊セシコトヲ欲シテ、官軍ノ虛ニ乘ジ、京都ヲ、襲ハンコトヲ恐レ、併リテ、降ヲ請フ、天皇モ亦併リテ、コレヲ許シ、詔シテ、直義ヲ討タシム、尊氏乃義詮ヲ留メテ、京都ヲ守ラシメ、親兵ヲ率ヰテ、東ニ赴キ、直義ヲ破リテ、コレヲ降シ

遂ニ、鎌倉ニ殺ス、○尊氏東ニ赴クニ及ビテ義詮奏シテ、車駕京都ニ還ランコトヲ請フ、是ニ於テ、義詮崇光院ヲ廢シテ、正平ノ號ヲ奉ズ、後光厳、崇光、兩院ヲ、上皇ト稱ス、天皇乃、由良信阿、兒島高德ヲシテ、密旨ヲ奉シ、新田氏ノ兵ヲ、發シテ尊氏ヲ、鎌倉ニ伐タシム、車駕行宮ヲ發シ、男山ニ至ル、楠正儀ハ、河内ヨリ來リ、源顯能ハ、伊勢ヨリ會シ、兵ヲ率ヰテ、京都ヲ攻ム、義詮又、近江ニ走ラシ、光明院及、二上皇ヲ、男山ノ行宮ニ、迎ヘ、遂ニ、コレヲ焼ス、義詮、近江ヨリ出デ、東山ニ據ル官軍利アラズシテ退ク、義詮、京都ヨリ進ミテ、男山ヲ圍ム、官軍、糧盡キテ、叛ク者アリ、天皇乃、甲ヲ擐、馬ニ御シ、圍ヲ衝キテ出ヅ、賊前後ヨリ來リ逼ル、藤原隆資等、コレニ死ス、僅ニ、賀名生ノ行宮ニ、還ルコトヲ得タリ、是ノ時ニ當リテ、新田義宗、義興等、尊氏

ヲ、武藏ニ破ル、基氏ヲ、鎌倉ニ伐チテ、コレヲ走ラス、既ニシテ、軍破レ、宗良親王ハ、信濃ニ走リ、義宗ハ、越後ニ走ル、高德來リ、密旨ヲ傳フルニ及ビテ、義宗等、又兵ヲ率ヰテ、東北ヨリシ、土居得能氏ハ、西南ヨリシ、共ニ、入リ援ハントス、男山、守ヲ失フト聞キテ、皆途ヨリ還ル、是ニ於テ、義詮、光嚴院ノ皇子、彌仁親王ヲ立ツ、卽後光嚴院ナリ、○山名時氏足利直冬、歸順ス、正儀ヲシテ、時氏ヲ助ケテ、京都ヲ攻メシム、義詮、新主ヲ奉ビテ、近江ニ奔ル、既ニシテ、尊氏西ニ歸リ、義詮ト、兵ヲ合セ、京都ニ入ル、詔シテ直冬ヲ、總追捕使トシ、再京都ヲ攻メシメテ、コレニ克ツ、後、又敗レテ還ル、○光嚴、光明、崇光三上皇ヲ、京都ニ還ス、○尊氏死シ、義詮嗣グ、是ノ時、新田義興、武藏ニ在リ、基氏ノ將畠山國清、人ヲシテ、コレヲ誘殺セシム、肥後ノ人菊地武光、懷良親王ヲ奉ビテ、少貳頼尚ト戰ヒコレヲ筑後河ニ破ル、武光ノ父ヲ、武時ト云フ、勤王スルヿ數年、其ノ子武重、父ニ嗣ギテ、少貳頼尚及大友氏時等ト戰フ、武重卒シテ、弟嗣グ、卽武光ナリ、○畠山國清、關東ノ兵、十萬ヲ舉ゲ、西上シテ、義詮ト合シ、

天野ノ行宮ヲ犯ス、是ニ於テ、車駕、觀心寺ニ幸ス、陸良親王、反シテ、賀名生ノ行宮ヲ焚ク、陸良ハ護良親王ノ子ナリ、前關白藤原師基ヲシテ、討チテ、コレヲ破ラシム、○細川清氏、歸順ス、詔シテ、師基、正儀ヲシテ、清氏ヲ助ケ、京都ヲ攻メシム、義詮、新主ヲ奉シテ、近江ニ走リ、赤松氏範ヲシテ、水路ヨリ、直ニ行宮ヲ犯サシム、師基等、コレヲ聞キ、軍ヲ引キテ還ル、義詮、復京都ニ入ル、後義詮死ス、子義滿嗣グ、細川頼之ヲ以テ、管領トス、○天皇、在位二十九年ニシテ、正平二十三年三月、住吉殿ニ崩ズ、

年四十一、天皇、幼ニシテ、東藩ヲ鎮メ、入リテ、大統ヲ纘ギ、恢復ヲ以テ、心トシ、親、艱危ヲ踏ム、其ノ際、東征北伐、寧、虚日無シ、

第九十九代、後龜山天皇、○後村上天皇ノ子ナリ、○北方、後光嚴院、位ヲ、皇子緒仁ニ讓ル、是、後圓融院ナリ、○細川氏、春來リ犯ス、天皇、コレヲ吉野ニ避ク、足利義滿、年既ニ長シテ、頼之ノ言ヲ聽カズ、稍、人心ヲ失フ、基氏ノ子氏滿、鎌倉ニ在リ、潛ニ、異志ヲ蓄ヘテ、事覺ル、義滿、書ヲ以テ、其ノ執事、上杉憲春ヲ讓ル、憲春、氏滿ヲ、諫メテ、死ス、○細川頼之、

伊豫ヲ犯ス、義滿諸將ヲ役シテ、大ニ第ヲ、室町ニ營ミ、漸驕奢ヲ事トス、頼之、コレヲ諫ムレドモ、聽カズ、互ニ嫌隙アリ、近臣從ヒテ、コレヲ譏ス、義滿乃、頼之ノ職ヲ罷メテ、國ニ就カシム、後其ノ功ヲ思ヒ、南海ヲ總管セシム、是ニ至リテ、伊豫ヲ犯ス、○北方後圓融院、位ヲ皇子幹仁ニ讓ル、是後小松天皇ナリ、義滿、大内義弘、六角滿高ヲシテ、來リ和ヲ請ハシメテ、曰ク、車駕還リ、神器ヲ授クバ、兩統更立スルコト、故事ノ如クセント、詔シテ、コレヲ許シ、車駕行宮ヲ發ス、群臣戎服シテ扈從シ、京都ニ入リテ、大覺寺ニ御ス、義滿、降禮ヲ用ヰンコトヲ欲ス、天皇許サズ、父子ノ禮ヲ以テ、神器ヲ、後小松天皇ニ授ク、○天皇、在位二十四年ナリ、後應永三十一年、四月崩ズ、年七十八、○延元二年、足利尊氏、光明院ヲ奉シテヨリ、北方五帝、五十六年ニシテ、兩統始メテ一ニ歸セリ、

北方ノ帝、光嚴院ハ、後伏見天皇ノ子ナリ、初後醍醐天皇ノ、太子タリ、天皇、笠置山ニ、幸スルニ及ビテ、花園上皇ノ詔ヲ以テ、踐祚ス、在位一年、シテ、コレヲ遜リ、薙髮シテ、鷲侍從

ヲ屏ケテ、僧順覺ト四方ニ雲遊ス、時人、コレヲ知ル者ナシ、後、丹波ノ山國ニ居リ、貞仁三年、七月崩ズ、年五十二、光明院ハ光嚴院ノ、同母弟ナリ、光嚴院、位ヲ去ルニ及ビテ足利尊氏ノ、奉ズル所トナリ、神器ヲ、後醍醐天皇ニ受ク、天皇吉野ニ幸スルニ及ビテ、位ヲ、太子興仁ニ讓ル、在位十二年、後薙髮シテ、諸寺ニ居リ、康曆二年、六月崩ズ、年六十、○崇光院ハ、光嚴院ノ子ナリ、在位三年ニシテ、足利義詮ニ、廢セラレ、新神器ヲ、後村上天皇ニ奉ズ、

應永五年、正月崩ズ、年六十五、○後光嚴院ハ、崇光院ノ、同母弟ナリ、初、足利尊氏、京都ニ、主無キニ、以テ、廣義門院ニ請ヒテ、帝ヲ立テントス、群臣、神器傳ハラズ、又命ヲ受クル所無キヲ以テ、コレヲ難ズ、尊氏聽カズ、遂ニ、踐阼セレム、後尊氏薨ズ、義詮ヲ以テ、征夷大將軍トス、義詮薨ズ、義滿ヲ以テ、征夷大將軍トス、帝、在位二十年ニシテ、位ヲ、皇子緒仁ニ讓リ、應安七年、正月崩ズ、年三十七、○後圓融院ハ、後光嚴帝ノ子ナリ、在位十一年ニシテ明德

四年、四日ノ崩ズ、年三十六、

第百代、後小松天皇ハ、後圓融院ノ子ナリ、六歲ニシテ、太政官廳ニ踐祚ス、時ニ、後龜山天皇ノ、弘和二年ナリ、○義滿奏シテ、大將軍ヲ、子義持ニ讓リ、自太政大臣トナラムコトヲ請フ、朝議コレヲ難

金閣ノ圖

レトス、然レドモ、其ノ怒ニ觸レンコトヲ恐レ、遂ニコレヲ許ス、既ニシテ、官ヲ辭シ、髮ヲ剃リテ、道義ト云フ、金閣ヲ、北山ニ起シテ、コレニ居リ、北山殿ト稱ス、又別ニ、一殿ヲ禁内ニ造リ、朝スル毎ニ、就キテ、安ヲ取ル、小御所ト稱ス、○大内義弘、亂ヲ作シ、周防、長門ノ兵ヲ舉ゲテ、和泉ノ、堺城ニ據ル、道義軍ヲ男山ニ出ダシ、畠山基國、細川頼元等ヲシテ、討チテ、コレヲ平ゲシム、初、今川貞世、筑紫ヲ鎭ス、義弘、引キテ以テ黨トセントス、貞世聽カズ、義弘、憤懼シテ、反リテコレヲ、道義ニ讒シ、已ニ代リ

テ様題トナル兵力日ニ強シ、是ノ時鎌倉管領滿兼父氏滿ニ嗣ギテ立チ、自將軍ト稱シ、第ヲ御所ト云フ、道義使ヲシテコレヲ諭メレシニ、服セズ、遂ニ異圖アリ、義弘潛ニ謀ヲ通ジ、東西ヨリ、京都ヲ夾擊セントス、道義諜レテコレヲ知リ、滿兼ヲ討タントス、上杉朝宗百方和ヲ講ス、是ニ至リテ、義弘終ニ敗ル、○道義好ヲ明國ニ通ズ、明主允炆封シテ日本國王トス、道義コレヲ受ク、世以テ醜トナス、○道義薨ズ、救レテ、大上皇ノ尊號ヲ贈ル、其ノ子義持辭レテ受ケズ、道義政ヲ執ルコト、四十

一年、儀仗、來輿ニ擬シ、驕僭尊氏ニ過ギタリ、○天皇在位三十年ニシテ、位ヲ、躬仁親王（稱光天皇）ニ讓ル、永享五年、十月崩ズ、年五十七、

第百一代、稱光天皇ハ、後小松天皇ノ子ナリ、即位ノ時、年十二、後小松上皇、政ヲ、院中ニ聽ク、○南朝ノ遺臣、後龜山天皇ノ後ヲ立ソル約ノ如クセンコトヲ請フ、許サズ、是ニ於テ南朝ノ遺孽所在兵ヲ起ス、尋テ、皆平グ、○鎌倉管領、滿兼卒シ、子持氏嗣ク、其ノ執事上杉氏憲ヲ罷メテ、代フルニ、上杉憲基ヲ以テ、憲基ハ、扇谷ニ居リ、氏憲ハ山内ニ

居リ稱シテ兩上杉ト云フ、持氏、素氏憲ト隙アリ因リテ其ノ權ヲ奪フ、氏憲乃、持氏ノ爭持仲ヲ奉ジテ、亂ヲ作シ、持氏ヲ攻ム、持氏駿河ニ走ル、義持關東ノ諸將ヲシテ、持氏ヲ援ケ、鎌倉ヲ、復セシメテ、持仲、及氏憲ヲ誅ス、義持ノ弟義嗣、氏憲ト謀ヲ通ジテ、將ニ、幕府ヲ襲ハントス、事顯ル、兵ヲ遣ハシ、捕ヘテコレヲ殺ス、既ニシテ、義持、大將軍ヲ辭シ、薙髮シテ、道詮トイフ、其ノ子義量、職ヲ襲グ、義量、夭テ、薨ズ、義持、再、事ヲ行フ、義持モ、亦、薨ズ、其ノ弟義圓、青蓮院ノ僧正タリ、管領畠山滿家、コレヲ迎フ、義圓、名ヲ義宣ト改ム、後、又、義教ト改ム、○天皇、在位十六年ニシテ、正長元年七月崩ズ、年二十八、

第百二代、後花園天皇、後伏見天皇五世ノ孫ニシテ、北方崇光院ノ曾孫ナリ、父ヲ、貞成親王（後崇光院）、太上天皇ト云ヘリ、稱光天皇、崩ジテ嗣無シ、後小松上皇、議シテ、天皇ヲ立ツ、時ニ年十歲、後小松上皇政ヲ、院中ニ聽ク、初、崇光院、南朝ニ囚ハレ、後光嚴院、弟ヲ以テ立ツ、傳ヘテ、稱光天皇ニ至リ、崇光院ノ子孫ハ、退キテ伏見ニ居リ、是ニ至リ、出デテ、大統ヲ

受クルコトヲ得タリ、後龜山天皇ノ皇子、小倉宮
某名 關 立ツコトヲ冀ヒテ得ズ伊勢ニ奔ル、北畠滿
雅コレヲ奉ジテ、兵ヲ擧グ、足利義教兵ヲ遣ハシ、
擊チテコレヲ平ゲンメ小倉宮ヲ放シ、嵯峨ニ居
ラレム、義教征夷大將軍トナリ、尋ラ内大臣ニ任
ズ、○初、義持ノ薨ズル、足利持氏征夷大將軍タラ
ンコトヲ、冀ヒテ得ズ、常ニ義教ヲ罵リテ曰ク吾
何ゾ、此ノ還俗將軍ニ、屈センヤト、其ノ執事、上杉
憲實諫レドモ聽カズ、終ニ憲實ヲ、殺サレコトヲ
圖ル、憲實出デ、上野ニ奔リ、ヨレヲ、義教ニ訴フ、

義教兵ヲ遣ハレテ、憲實ヲ援ケ、持氏ヲ討チテ、コ
レヲ敗ル、持氏窮蹙レテ、憲實ト和シ、髮ヲ剃リテ、
永安寺ニ徙ル、憲實使ヲ京都ニ馳セテ、持氏ノ死
ヲ、宥メンコトヲ請フ、義教聽カズ是ニ於テ、持氏、
其ノ子義久ト、共ニ自殺ス、基氏ヨリ、是ニ至ルマ
デ、四世、凡九十年關東ノ諸將、皆憲實ヲ推レテ、鎌
倉管領トス、憲實弟清方ヲ、越後ヨリ召シ、其ノ職
ヲ讓リ、薙髮シテ、長棟ト云フ、後持氏ノ影前ニ詣
リ、自殺セントス、從者ノタメニ、止メラレテ、果サ
ズ、既ニシテ、下總ノ人、結城氏朝義久ノ弟春王安

王ヲ奉ジテ、亂ヲ結城ニ作ス、義教清方ヲレテ、擊チテ、コレヲ平ゲレム、義教ノ弟僧トナリ、義昭ト云フ、大覺寺ニ居リ、關東、亂作ルニ乘ジテ、小倉宮ヲ奉ジ、以テ兵ヲ擧ゲンコトヲ謀ル、事覺レテ、薩摩ニ出奔ス、義教、島津忠國ヲレテ、コレヲ殺サレム○義教、赤松滿祐ノ族貞村ヲ愛シ、滿祐ノ地ヲ割キテ、コレニ與ヘンコトヲ欲ス、滿祐怒リ、義教ヲ弑シテ、播磨ニ奔ル、義教ノ子、義勝立ツ、生レテ八歲、山名持豐等、滿祐ヲ伐チテ、コレヲ滅ボス、既ニシテ、義勝卒ス、弟義政嗣グ、亦生レテ、八歲ナリ、○藤原有光、小倉宮ノ子尊義王ヲ奉ジテ、中興王ト稱シ、夜禁中ニ入リテ、神器ヲ奪フ、衛士追擊シテ、劍鏡ヲ獲タリ、有光等、神璽ヲ擁シテ、延曆寺ニ據ル、義政兵ヲ遣ハシテ、コレヲ討ツ、尊義王自殺シテ、有光死ス、餘黨、王ノ子、尊秀王ヲ奉ジテ、吉野

ノ北山ニ據ル、後赤松氏ノ遺臣、佯リ降リテ、神璽ヲ奪ヒ、以テ來リ獻ス、○義政、足利持氏ノ季子、永壽王ニ、名ヲ成氏ト賜ヒテ、以テ鎌倉管領トス、關東將士ノ請ニ、由リテナリ、是ニ於テ、上杉憲忠ヲ、執事トシ、上杉憲房ヲレテ、コレヲ助ケレム、二人尚幼キヲ以テ、其ノ家人、太田資清ハ、顯房ヲ輔ケ、長尾景仲ハ、憲忠ヲ輔ク、憲忠ハ、長棟ノ子ナリ、長棟、嘗テ持氏ヲ殺スヲ以テ、成氏ヲ避ケテ、出奔ス、資清、景仲、長棟ノ舊制ニ從ハンコトヲ欲ス、成氏聽カズ、常ニ、上杉氏ヲ、除カンコトヲ圖ル、資清、景仲怒リテ、成氏ヲ襲ヒ、迭ニ勝敗アリ、義政使ヲレテ、コレヲ和解セレム、既ニレテ、成氏兵ヲ起シ、憲忠顯房ヲ代チテ、コレヲ殺ス、義政、今川範忠ヲレテ、成氏ヲ討タレム、成氏敗レテ、下總ノ古河ニ奔ル、憲忠ノ弟房顯、鎌倉ニ入リテ、管領トナリ、關東大ニ亂ル、是ニ於テ、義政、弟政知ヲレテ、伊豆ニ居リ、以テ、コレヲ鎮メレム、稱シテ、堀越御所ト云フ

○畠山持國、子無シ、弟持富ヲ嗣トス、既ニレテ、子義就ヲ生ズ、遂ニ以テ嗣トシ、隅田某名國ク、佐渡ト称ス、ヲレテ、傅タラレム、家臣等某ト、隙アル者アリ、持富

ノ子政長ヲ立テヽ、嗣トナサンコトヲ欲ス、衆多ク、コレニ附ク、細川勝元、政長ヲ助ク、政長出デヽ、勝元ニ依ル、勝元、山名持豐ト、姻アルヲ以テ、持豐モ亦、政長ニ黨ス、政長ノ從者、皆持國ノ家ヲ去リテ、持豐ノ家ニ匿ル、義就乃、兵ヲ集メテ、政長ヲ攻メントス、京都騷然タリ、義政諸將ニ令シテ、室町ノ第ヲ衛ラレム、勝元、持豐至ラズ、政長火ヲ近邑ニ放チテ、持國ノ家ヲ攻ム、持國難ヲ、從弟義忠ノ家ニ避ク、義就、自其ノ家ヲ燒キテ、伊賀ニ奔ル、政長ノ黨、兵三百ヲ遣ハレテ、持國ヲ迎ヘレム、勝元

遂ニ政長ヲ、嗣トセンコトヲ請フ、義政コレヲ許ス、然レドモ、勝元、持豐ノ、政長ニ黨レテ、爭端ヲ、開ケルコトヲ惡ム、勝元、自安ゼズ、罪ヲ、其ノ家臣ニ歸レテ、コレヲ斬リ、持豐ハ、上書レテ罪ヲ謝シ、退キテ、但馬ニ居リ、政長、兵ヲ率ヰ、義就ヲ、河内ニ攻メテ克タズ、義政、使ヲレテ、コレヲ和解セレム、乃義就、政長、共ニ京都ニ入ル、義就、後義政ノ旨ニ忤ヒテ、逐ハレ、又河内ニ奔ル、勝元、兵ヲ遣ハレテ、政長ヲ援ケ、以テ、其ノ城ヲ拔カレム、義就、退キテ、岳山ニ據リ、累年下ラズ、既ニレテ、紀伊ニ逃レ、又大

和ニ入ル、○天皇在位三十六年ニシテ、位ヲ成仁親王（後土御門天皇）ニ讓ル文明二年、十二月崩ズ、年五十二、

第百三代、後土御門天皇ハ、後花園天皇ノ子ナリ、○大將軍義政職ニ在ルコト久シク、頗其ノ務ニ倦ム、時ニ弟義尋僧トナ

リテ、淨土寺ニ在リ、因リテ、養ヒテ子トセントス、義尋固辭ス、義政曰ク、吾後子アラバ、必僧トセジ、決シテ此ノ誓ヲ渝ヘジト、義尋乃髮ヲ蓄ヘテ、名ヲ、義視ト改ム、細川勝元、管領タリ、既ニシテ、子義尚生ル、其ノ母コレヲ、僧トセンコトヲ欲セズ、但勝元ハ、義視ヲ輔クルヲ以テ、其ノ約ヲ渝ヘンコトヲ憚リ、諸將ノ勝元ト、抗スベキ者ヲ求メテ密ニコレヲ、山名宗全ニ託ス、宗全ハ、即持豐ナリ、初、宗全女ヲ以テ、勝元ニ妻シテ、子無シ、勝元因リテ、宗全ノ子、是豐ヲ養ヒテ、嗣トス、既ニシテ、子ヲ生

ズ、乃是豊ヲ廢ス、宗全懌バズシテ、嫌隙アリ、故ニ、其ノ託ヲ受ケテ辭セズ、畠山義就ハ、勇ニシテ、勝元ト、相仇スルコトヲ知リ、義政ニ請ヒテ、京都ニ還サシメ、畠山政長ノ、管領ヲ罷ム、政長憤恚シテ、怨言ヲ出ダス、宗全コレヲ聞キテ、義就以下、三十餘將ト、政長ヲシテ、本筭ヲ避ケシメンコトヲ、請ヒテ曰ク、勝元、政長ヲ庇ス、異圖アルニ似タリト、義政、因リテ、使ヲ遣ハシテ、勝元ニ問ハシム、勝元答ヘズ、遂ニ政長ト、兵ヲ聚メテ、自備フ、宗全等モ亦、兵ヲ召シテ、室町ノ第ヲ守ル、義政今シテ曰ク、政長義就各手兵ヲ以ケ、相決セヨ、諸將コレヲ、援クルコト勿レト、政長、乃其ノ家ヲ焚キテ、御靈林ニ陣ス、宗全潛ニ、義就ヲ援ケテ、コレヲ擊ツ、政長敗走ス、世人、勝元ノ、政長ヲ、援ケザルコトヲ嗤ヒ、以テ怯ナリトス、勝元コレヲ慚ヂ、宗全ノ兵散ズルヲ覘ヒテ、密ニ、兵ヲ諸國ニ徵ス、其ノ兵凡十六萬餘、宗全コレヲ聞キテ、亦兵ヲ諸國ニ徵ス、凡十一萬餘、勝元ハ東ニ陣シ、宗全ハ、西ニ陣シ、相戰ヒテ、更勝敗アリ、第宅文籍皆兵燹ニ罹バ、是ヲ應仁ノ亂ト云フ、應仁ハ、當時ノ年號ナリ、○大將軍義

政、致仕ス、子義尚嗣グ、畠山政長、管領タルコト、七日ニシテ辭ス畠山義統、コレニ代ル、是ヨリ先、義視出デ、伊勢ニ在リ、義政書ヲ以テ、コレヲ召シ、勝元モ、其ノ還ランコトヲ請フ、義視京都ニ歸ル、會飛語アリ、勝元廢立ヲ圖ルト是ニ於テ、義視又出デ、延曆寺ニ在リ、宗全迎ヘテ、己ノ陣中ニ置ク、既ニシテ、宗全勝元ト皆卒ス、義視、美濃ニ奔リテ、土岐氏ニ賴ル、後義尚名ヲ義熙ト改ム、薨シテ、子無シ、義政乃義視ヲ、美濃ヨリ、名還シ、其ノ子義材ヲ養ヒテ、嗣トス、義材名ヲ義植ト改ム、尋テ義

政薨ズ、義政致仕セレヨリ、使ヲ明ニ遣ハシテ、銅錢ヲ求メ、又、銀閣ヲ東山ニ營ム、以テ金閣ニ擬シ、徙リテコレニ居リ、東山殿ト稱ス、義視モ亦、相繼ギテ薨ズ、義植、征夷大將軍ニ任ジ、畠山政長ト兵ヲ率ヰテ、畠山義豐ヲ、河内ニ攻ム、義豐ハ、義就ノ子ナリ、細川政元政長ト權ヲ爭ヒ、足利政知ノ子、義澄ヲ、關東ヨリ迎ヘテ、コレヲ立テ、義豐ヲ援ケテ、義植政長ヲ攻ム、政長自殺ス、義植ヲ執ヘテ、コレヲ、京都ニ幽ス、後義植越前ニ奔リテ、朝倉氏ニ依リ、兵ヲ舉ゲテ、近江ニ入ル、義澄逆擊シテ、コレ

ヲ破ル、義植、又周防ニ奔ル、是ノ時ニ當リテ、政知、既ニ、其ノ子茶々丸ニ弑セラル、今川氏親ノ部將、伊勢氏茂、茶々丸ヲ討テ、伊豆ヲ略シ、氏ヲ、北條ト改ム、○天皇、在位三十六年ニシテ、延德九年、九月崩ズ、年五十九、

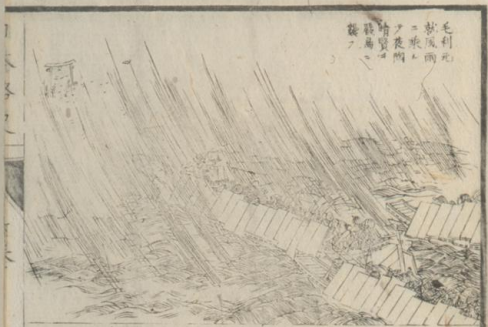
第百四代、後柏原天皇ハ、

後土御門天皇ノ子ナリ、踐阼ノ後、二十一年、本願寺ノ僧、資ヲ獻ズ、因リテ、始メテ、卽位ノ禮ヲ、行フコトヲ得タリ、○前將軍義植ノ、官爵ヲ罷ム、○細川政元、其ノ臣香西元近ニ弑セラル、初、政元子無シ、藤原政基ノ子、澄之ヲ養ヒ、又、族政春ノ子、高國ヲ養ス、皆、意ニ稱ハズ、更ニ、族義春ノ子、澄元ヲ養ヒ、コレヲ其ノ臣、三好之長ニ付ス、元近謀リテ、謂ヘラク、澄元立タバ、之長、權ヲ專ニセント、因リテ、政元ヲ弑ス、之長、阿波ノ兵ヲ以テ、澄元ヲ奉シテ、元近ヲ討ズ、義澄及澄元ヲ管領トス、○大内義興、

義植ヲ奉シ、細川高國ト、大舉シテ、京都ニ入ル、義澄、近江ニ奔リ、登元、阿波ニ奔ル、是ニ於テ、義植ヲ復シ、義澄ノ官爵ヲ削リ、義興ヲ以テ、管領トス、後義澄、近江ニ薨ズ、○細川政賢、兵ヲ舉ゲテ、京都ニ入ル、義興、義植ヲ奉シテ、コレヲ、丹波ニ避ケ、又還リテ、政賢ヲ討ズ、既ニシテ、義興國ニ就ク、高國、管領タリ、澄元、四國ノ兵ヲ率キテ、攝津ノ、兵庫ニ至リ、之長ハ、久米川ニ陣ス、高國、コレト戰ヒテ克タズ、近江ニ奔ル、之長、遂ニ長驅シテ、京都ニ入ル、義植モ、亦近江ニ奔ル、尋テ、高國、兵ヲ發シテ、京都ヲ攻ル、澄元、阿波ニ奔ル、之長、其ノ二子ト、共ニ自殺ス、後澄元、阿波ニ卒ス、高國、復義植ト、隙アリ、義植出デ、淺路ニ奔ル、高國、乃義澄ノ子義晴ヲ迎ヘテ、コレヲ立ツ、後義植モ、亦阿波ニ薨ズ、○天皇、在位二十六年ニシテ、大永六年、四月崩ズ、年六十三、

第百五代後奈良天皇ハ、後柏原天皇ノ子ナリ、踐阼ノ後十年、大内義隆、貢ヲ奉ル、間ノヲ、始メテ、郎位ノ禮ヲ行フ、○細川高國ノ臣、柳本賢治、兵ヲ、丹波ニ起シテ、京都ヲ侵ス、高國、コレヲ拒ギテ、利アラズ、義晴ヲ奉シテ、近江ニ奔ル、三好之長ノ孫、元

長細川晴元ヲシテ、義晴ノ弟義維ヲ奉ゼシメ、阿波ヨリ、和泉ノ堺ニ至ル、晴元ハ、澄元ノ子ナリ、既ニシテ越前守護朝倉孝景、近江守護六角高頼等、高國ト共ニ、義晴ヲ京都ニ納レ、晴元ト和ヲ議ス、賢治欲セズ、和又破ル、義晴ハ、近江ニ奔リ、高國ハ、伊勢ニ奔ル、尋テ、高國賢治皆死ス、晴元、元長ヲ殺シテ、義維ヲ幽シ、義晴ヲ京都ニ納ル、義晴乃晴元ヲ管領トス、後晴元、義晴ニ逼リテ、職ヲ其ノ子義輝ニ、讓ラシム、元長ノ子、長慶、兵ヲ率ヰテ、京都ニ入ル、晴元因リテ、義晴義輝ヲ挾ミ、近江ニ奔ル、義



晴遂ニ、穴太山中ニ、遁ズ、義輝、長慶ト和シテ、又京都ニ、復ル、○應仁以降、足利氏ノ政令行ハレズ、此條氏茂ノ孫氏康、既ニ山内、扇谷ノ、両上杉ヲ滅ボシ、關東ニ據リ、武田晴信ハ、甲斐信濃ヲ略シ、上杉輝虎ハ、三越ヲ取リ、毛利元就ハ、山陰、山陽ヲ併セ、

四國ニハ、長曾我部氏アリ、九州ニハ、大友島津及龍造寺ノ、三氏アリ、其ノ他豪傑、各方ニ割據レテ、戰爭、止ム時無ク、生民塗炭ニ陷ルガ如シ、○天皇在位三十一年ニシテ、弘治三年九月崩ス、年六十三、

第百六代、正親町天皇ハ、後奈良天皇ノ子ナリ、踐阼ノ後三年、毛利元就、貢ヲ奉ル、因リテ、始メテ、郎位ノ禮ヲ行フ、○今川義元、駿河ヨリ兵ヲ率ヰテ、尾張ヲ侵ス、織田信長、コレヲ桶峽間ニ破リ、義元ヲ斬ル、○上杉輝虎、信濃ニ入リ、武田晴信ト、大ニ、

河中島ニ戰ス、○天皇、使ヲ尾張ニ遣ハシテ、密旨ヲ信長ニ諭ス、尋テ、松永久秀、其ノ主三好長慶ノ子義長ヲ鴆殺シ、又將軍義輝ヲ弑ス、義輝ノ弟、僧侶慶、近江ニ奔リテ、名ヲ義昭ト改メ、往キテ信長ニ依ル、信長、乃京都ニ入ル、後義昭ヲ廢シテ、三好氏ヲ滅シ、近畿略平グ、是ニ於テ、皇宮ヲ造營シ、地租ヲ以テ、大内ニ奉ジ、絶エタルヲ繼ギ、廢シタルヲ興シ、又徭役ヲ弛ブ、既ニシテ、其ノ臣、羽柴秀吉ヲ、山陽道ニ遣ハシテ、毛利輝元ヲ攻メシム、輝元ハ元就ノ孫ナリ、尋テ、秀吉、信長ノ自來ヲ伐タン

コトヲ請フ、信長乃其ノ子信忠ト、進ミテ京都ニ入リ其ノ臣、明智光秀ニ弑セラル、信忠モ亦コレニ死ス、秀吉變ヲ聞キテ、輝元ト和シ光秀ヲ山崎ニ擊チテ、コレヲ誅ス、柴田勝家、滝川一益等、秀吉ヲ除カンコトヲ圖ル、秀吉與ニ戰ヒテ、皆コレニ克チ遂ニ城ヲ大坂ニ築キテ居リ、長曾我部氏ヲ南海ニ降ダシ、上杉氏ト北越ニ和ス、○天皇在位二十九年ニシテ、位ヲ周仁親王後陽成天皇ニ讓ル、丈錄二年、正月崩ズ、年七十五、

第百七代後陽成天皇ハ、正親町天皇ノ孫ニシテ、父ハ、陽光院贈太上天皇誠仁親王ナリ、○秀吉ノ太政大臣トス、是ヨリ先、秀吉既ニ關白ニ拜セラレ、氏ヲ豐臣ト稱ス、是ニ至リ、大擧シテ西征ス、島津義久出デ、降ル、又北條氏政ヲ、相模ニ討ナナ、コレヲ破ル、奥羽ノ諸豪風ヲ望ミテ來附ス、○應仁以降海内分裂シ、干戈止ム時無カリシ者、是ニ至リテ、始メテ、一ニ歸セリ、○秀吉既ニ海内ヲ平グ、更ニ、武ヲ海外ニ、輝サンコトヲ欲ス、奏シ請ヒテ、内大臣秀次ヲ關白トシ、自太閤ト稱ス、秀次ハ、其ノ甥ナリ、秀吉出デテ、肥前ノ名護屋ニ陣シ、浮田秀

家加藤清正、小西行長等ヲシテ、朝鮮ヲ伐タシム、朝鮮王李昖、義州ニ出奔ス、明主朱翊鈞兵ヲ發シテ朝鮮ヲ援ク、擊チテコレヲ破ル、會、秀吉ノ子秀頼生ル、因リテ大坂ニ還レ、時ニ秀次、縱横度無シ、秀吉怒リテ、秀次ヲ、高野山ニ逐ヒ、尋テ、コレヲ殺

ス、是ノ時ニ當リテ、明主、既ニ和ヲ講シテ、使ヲシテ來ラシム、秀吉、其ノ書辭ノ、無禮ナルヲ怒リ、コレヲ逐ヒ還シ、再兵ヲ發シ、朝鮮ヲ攻メテ、大ニコレヲ敗ル、既ニシテ、秀吉薨ズ、時ニ年六十三、遺命シテ、諸將ヲ名シ還サシム、詔シテ、秀吉ニ豐國大明神ノ號ヲ贈ル、○德川家康、前田利家等、秀吉ノ遺囑ヲ承ケテ、秀頼ヲ輔ケ、幾モ無クシテ、利家薨ス、石田三成、密ニ謀ヲ、上杉景勝ニ通シテ、家康ヲ除カントス、景勝、朝セズ、家康、兵ヲ率ヰテ、東征ス、三成乃、西國ノ諸侯ヲ名ス、家康、コレヲ聞キテ、諸

織田豐臣德川
三公ノ像

將ト、下野ヨリ西上シ、三成及浮田秀家、小西行長大谷吉隆、增田長盛等ト、關原ニ戰ヒ、大ニコレヲ敗リ、三成長盛等ヲ捕斬シ、旬月ヲ出ヂズシテ、國内悉皆德川氏ニ服ス、詔シテ、家康ヲ、征夷大將軍ニ任ス、既ニシテ、家康職ヲ辭ス、因リテ、其ノ子秀

忠ヲ、大將軍トス、秀忠、江戸城ニ居リ、家康ハ、駿河ニ老ス、○島津家久、請ヒテ、琉球ヲ伐チ、其ノ王尚寧、及太子、大臣、數十人ヲ擒ニス、議シテ、琉球ヲ、家久ニ賜ス、○天皇、在位二十五年ニシテ、位ヲ、政仁親王後水尾天皇ニ讓ル、元和三年八月崩ズ、年四十七、第百八代、後水尾天皇ハ、後陽成天皇ノ子ナリ、○大野治長等、秀頼ニ勸メテ、兵ヲ舉グレム、家康大舉シテ、大坂ヲ攻ム、城陷リテ、秀頼自殺ス、年二十三、豐臣氏、是ニ至リテ亡ス、家康、新式十七條ヲ頒ツ、コレヲ、元和令ト云ス、元和ハ、當時ノ年號ナリ、

朝廷就キテ、家康ヲ、太政大臣ニ拜ス、既ニシテ、家康薨ズ、年七十五、久能山ニ葬ル、勅シテ、東照大權現ト號ス、後秀忠遺命ヲ以テ、日光山ニ改メ葬リ、新廟ヲ建ツ、詔シテ、正一位ヲ贈ル、○秀忠職ヲ辭ス、家光ヲ、征夷大將軍ニ任ズ、家光ハ、秀忠ノ子ナリ、○天皇、在位十八年ニシテ、位ヲ、興子內親王明正天皇ニ讓ル、延寶八年、八月崩ズ、年八十五、

第百九代、明正天皇ハ、後水尾天皇ノ女ナリ、踐阼ノ時、甫メヲ八歲、稱德天皇以後、皇女ノ登極スル者無シ、天皇、母ハ、秀忠ノ女タルヲ以テ、特ニ大統ヲ承ク、○賊、亂ヲ島原ニ作ス、松平信綱、水野勝成等ヲシテ、伐チテ、コレヲ平ゲシム、○天皇、在位、十四年ニシテ、位ヲ、皇弟紹仁親王後光明天皇ニ讓ル、元祿九年、十一月崩ズ、年七十四、

第百十代、後光明天皇ハ、後水尾天皇ノ子ナリ、○家光薨ス、子家綱繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○是ノ時、由井正雪、丸橋成純等亂ヲ、作サンコトヲ謀リ、事覺レテ、誅ニ伏ス、○皇宮火ク、家綱ニ敕シテ、コレヲ造ラシム、○天皇、資性英邁ニシテ、復古志アリ、不幸ニシテ、其ノ事ヲ果サズ、在位十一年、

ニレテ、貞應三年、九月崩ズ、年二十二、

第百十一代、後西院天皇ハ、後水尾天皇ノ子ナリ、

○量制ヲ改ム○江戸大ニ火ク、尋テ皇宮災アリ、

○天皇在位八年ニレテ、位ヲ、皇弟識仁親王（靈元天皇）ニ讓ル、貞享二年、二月崩ズ、年四十九、

第百十二代靈元天皇ハ、後水尾天皇ノ子ナリ、○絹布ノ長ヲ定メテ、二丈六尺ヲ一端トス、又唐入ノ大刀ヲ、佩ルコトヲ禁ズ、○將軍家綱薨ズ、弟綱吉繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○皇子朝仁ヲ立テ、皇太子トス、後小松天皇以來、立坊ノ典ヲ闕ク

コト十三世、是ニ至リニ、コレヲ修ス○陰陽博士、安倍安福ニ詔レテ、宣明曆ヲ廢シテ、授時曆ニ據ラシム名ヲケテ貞享曆トイフ、年號ヲ以テ、曆法ニ名ヲクルコト、此ヨリ始マル、清和天皇貞觀中、大衍曆ヲ廢レテ、宣明曆ヲ、行ヒレヨリ、此ニ至ルマデ、八百二十餘年ナリ、○朝鮮琉球、二國通商ノ法ヲ定ム、○天皇在位二十四年ニレテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、享保十七年、八月崩ズ、年七十九、

第百十三代東山天皇ハ靈元天皇ノ子ナリ、○綱吉學校ヲ、江戸ノ神田ニ建テ、孔廟ヲ造リ、聖堂ト

稱ス、○播磨赤穗ノ城主、淺野長矩、高家吉良義英ヲ城中ニ傷ク、坐セラレテ、死ヲ賜フ長矩ノ遺臣大石良雄等義英ノ第ヲ襲ヒ、コレヲ殺シ、幕府ニ自首ス、其ノ徒四十六人、皆死ヲ賜フ、○綱吉薨ズ、家宣繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○天皇、在位二十

赤穗遺臣、吉良氏ヲ襲フノ圖

三年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓リ、是ノ歲崩ズ、時ニ寶永六年ナリ、年三十五、

第百十四代、中御門天皇ハ、東山天皇ノ子ナリ、家宣薨ズ、家繼繼ギテ、征夷大將軍ニ任ス、既ニシテ、家繼モ亦薨ズ、吉宗大將軍タリ、吉宗節儉ヲ行ヒ、言路ヲ開キ、賢良ヲ舉グ、一時其ノ治ヲ稱ス、○中納言源光圀、大日本史ヲ撰ス、○天皇、在位二十六年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、元文二年、四月崩ズ、年三十七、

第百十五代、櫻町天皇ハ、中御門天皇ノ子ナリ、○

阿蘭陀國、貿易ノ歲額ヲ定ム、○吉宗職ヲ辭ス、子家重繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○天皇、在位十二年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、寛延三年崩ズ、年三十一、

第百十六代、桃園天皇ハ、櫻町天皇ノ子ナリ、即位ノ時、年甫メテ七歲、○家重職ヲ辭ス、家治繼ギテ、大將軍ニ任ズ、○天皇、在位十五年ニシテ、寛延十二年、七月崩ズ、年二十二、

第百十七代、後櫻町天皇ハ、櫻町天皇ノ女ニシテ、桃園天皇ノ妹ナリ、○天皇、在位八年、位ヲ、皇太子ニ讓ル、文化十年閏十一月崩ズ、年七十四、

第百十八代、後桃園天皇ハ、桃園天皇ノ子ナリ、○天皇、在位九年ニシテ、安永八年、十一月崩ズ、年二十二、

第百十九代、光格天皇ハ、東山天皇ノ曾孫ニシテ、自在王院宮典仁親王ノ子ナリ、○家治薨ズ、家齊ヲ以テ、征夷大將軍トス、○皇宮災アリ、家齊天下ノ諸侯ニ課シテ、コレヲ造營セシム、其ノ制稍、古ニ復ス、○蝦夷亂ヲ作ス、尋テ平グ、始メテ、戍卒ヲ箱館ニ置ク、○寛政曆ヲ頒チ行フ、○天皇、在位三十七

年ニレテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル、後天保十一年、十一月崩ズ、年七十、天皇學ヲ好ミテ、典故ニ精レク、諸祭典ヲ復レ、廢官ヲ興ス、

第百二十代、仁孝天皇ハ、光格天皇ノ子ナリ、○大將軍源家齊ヲ以テ、左大臣ニ任ジ、從一位ニ叙ス、世子家慶ハ、内大臣ニ任ジ、正二位ニ叙セラル、鎌倉以來、大將軍ノ世子、大臣ニ任ズルコト此ヲ始メース、既ニレテ、家齊又太政大臣ニ任ジ、家慶ハ、從一位ニ叙セラル、是ニ至リテ、家齊職ヲ辭レ、家慶繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○晉更大鹽平八郎、亂ヲ大坂ニ作ス、尋テ平ク、○家慶諸縉紳ノ爲ニ、學舍ヲ、建春門ノ前ニ建ツ、天皇コレヲ嘉ミシ、名ヲ學習院ト賜フ、○天皇、在位三十年ニレテ、弘化二年二月崩ズ、年四十七、○天皇孝謹ニレテ、學ヲ好ム、光格天皇崩ズルニ及ビテ、久シク廢セレ、謚ノ法ヲ復ス、

第百二十一代、孝明天皇ハ、仁孝天皇ノ子ナリ、○米利堅國使ヲ遣ハレテ、通信貿易ヲ請フ、會家慶、病ニ罹リテ薨ス、家定ヲ以テ、征夷大將軍ニ任ズ、家定先貿易ノ請フ許シ、然ル後ニ、コレヲ奏ス、曾

西亞英吉利、佛蘭西、阿蘭ノ各國、使ヲ遣ハシテ、貿易ヲ求ム、遂ニ、五國ノ條約成ル、既ニシテ、家定薨ズ、家茂繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、幾モ無ク、家茂薨ズ、慶喜ヲシテ、職ヲ襲ガシム、征夷大將軍ニ任ズ、天皇在位二十年ニシテ、慶應二年、十二月崩ズ、年三十六、

第百二十二代、今上天皇、八、孝明天皇、ノ子ナリ、○大將軍慶喜、職ヲ辭ス、是ヨリ天皇、萬機ヲ親裁シ、封建ヲ改メテ、郡縣ト爲ス、江戸ヲ東京ト稱シ、以テ皇居トス、源頼朝、府ヲ鎌倉ニ開キシヨリ、明治元年戊辰ニ至ルマデ、凡六百八十三年ニシテ、王政復古ス、神武天皇元年辛酉ヨリ、今明治八年ニ至ルマデ、凡二千五百三十五年ナリ、

車駕東下ノ圖

日本略史下卷終

師範學校編輯

真行習字手本

村田海石筆　綴本　二冊　折手本　二帖

右ハ東京師範學校編輯の習字手本ニシテ村田海石先生真行二體黒白二樣字ヲ記載セシモ已ニ方今流行の菱湖翁の筆法ヲ學習セシモノハ無上の手本ヲ以テ海石先生練磨の筆跡まり

明治八年十月四日御届
同　十二月　出版

大坂齊橋通博勞町角
書林　岡田茂兵衛

皇漢西洋　書籍賣捌處

戒丹之内　佗竹姓

濱田縣下書林　安達幾太郎

大阪府下書林　岡田茂兵衛